
言語研究センター共同研究

節周辺部と節構造

佐藤裕美／辻子美保子／加藤宏紀／片岡喜代子／相原昌彦

テンス、アスペクト、モダリティ、文タイプなどに関わる節周辺部の構造、それぞれに関わる機能範疇の語彙的特性や言語間、同一言語内における多様性のパターンについて、英語、日本語、中国語、スペイン語、イタリア語などに観察される現象を考察し、節構造と関わる普遍的性質、個別言語的特徴について説明することを目的としている。9月11日に南カリフォルニア大学の傍士 元氏をお招きし、講演会を開催した。講演では、Oxford 大学出版局より近日刊行予定である、傍

士氏の著書 Language Faculty Science の内容を出版に先立って紹介して頂いた。いかにして言語機能が厳密科学として研究可能であるか、またその意義について述べられ、仮説の経験的な裏付けのために行われる一連の実験の具体例をご説明下さった。本研究グループのメンバーのみならず、他大学の教員、大学院生も多く出席し、活気のある講演会となった。11月以降はメンバーによる研究発表を数回行うことを計画中で、来年度の研究報告書出版に向け準備を進める予定である。